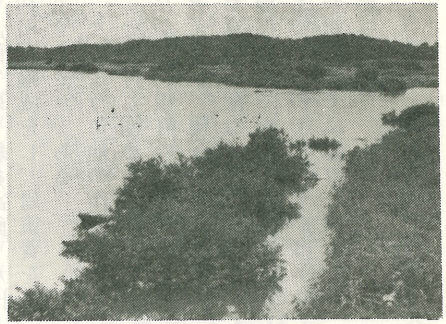




広報

とね

茨城県北相馬郡利根町役場
昭和52年11月20日発行 No.164



老人大学を写す

十月十六日、中央公民館で開講された老人大学にカメラの目をあててみました。写真は、午後のレクリエーションの部で、みごとな舞踊をひろうする布川の万千百・東山クラブの皆さんと会場を埋め尽くしたお年寄りのかたがた。舞踊は、このほかにも時間の許すかぎり続けられ、そのつど拍手がっさいがおこられました。



第三回利根町議会定例会から

一般質問

農業生産調整の対策について

A議員

質問 五十三年度の農林省の要求の性格を見ると、来年の十月をこえると米の在庫余剰が四〇〇万トンもできるし、なお、米の消費が非常に停滞しているから長期的な米の生産を抑制するということで、そのかわりに他の作物に転換を強く押し進めてゆく方針である。

また、転作を定着させるため、土地改良や近代化施設をして、水田を立派に二毛作、三毛作ができるように長期十年計画で取り組む計画、水田利用再編成をし、対策費を計上するそうである。

このように他の作物を作ることを押し進めるといふことだが、利根町の農業者はどう考えるか。現在のところ出かせぎは心配なく仕事があるし稲作志向でなんとか農業経営もできるので、わずかばかりの対策費では協力しかねると思う。

しかし、麦、野菜、畜産等

第二には、転作を行い得る態勢を確立することである。たとえば、土地改良等を行い転作に適合する土質を醸造すること。

第三には、国や県に対し、転作奨励金の増額と米の消費量の増大等(例えば学校給食等)を強く要請すること。

以上の三点が転作に対する町の考え方である。

石塚産業課長答弁 ご質問のように、来年の十月末には、四〇〇万トンも過剰米がでるというのが国の見方で、この対策として、国は面積にして四十万ヘクタールの稲作転換を図る計画で、これは本年度の二倍にあたるわけである。

利根町の場合、昭和五十二年の目標面積が十七ヘクタールに対し、実績面積が九・五ヘクタールで約五十六％の成績であった。

そこで、国の対策にしたがえば、当然、利根町の来年の転作目標も増加すると考えられるが、転作が進まない理由としては、転作の種類等によって、価格の面でいろいろと変動があるからである。(現在、米の場合の価格の算定は生産費所得補償方式に対し、麦、その他はパリティ方式へ

平衡価格Vで行われている。)

町では現在、陸田等を転換に推進してゆきたい考えであるが、最終的には、稲作転換がいつでもできるような基盤にしていきたいわけで、それには:

①生産基盤の整備、特にかんがい排水の完備により、いつでも水田が畑となり、また必要に応じて畑が水田となるような基盤としたい。

②種類については、地域性を考慮して、麦類、大豆を推進したい。特に麦については、水田裏作が価格その他についても有利性を持っており、同時に機械化体系からも推進したい考えである。

質問 農薬散布について——稲作病虫害空中防除については、公害の問題で不可能であると聞いておるが、隣接町村では実施しているところもある。

防除については、数々の手数、難点もあると思うが、農業者の要望もあるので実施していただきたい。

町長答弁 この問題は以前にも一、二回質問があったと思うが、農薬の空中散布には、二つの問題点があるというところである。

一つには公害発生の要因と

なること。もう一つは、投資効果が少ないということ。ヘリコプターを使って膨大な経費をかけた割に、それだけの効果がみられないということである。

利根町は、地域によっては住宅が点々としており、また送電線等もあり、投資効果が期待できないという二つの大きな理由のもとに、今までも行われていないわけであるがこれからも当町では空中散布は無理であると考えておる。

そのかわり農家に対しては大幅な助成を行って病虫害防除について、最大の効果をあげたいと思う。

石塚産業課長答弁 農薬の空中散布については、公害問題もさることながら、経費が非常に高く、投資効果が少ないので町では空中散布を行う考えはない。

たとえば、二化メイ虫の場合、空中散布では十アルル当たり薬代が二五〇円に対し、その他ヘリコプターや事務費が四五〇円、合計七〇〇円ぐらゐが標準となるが、町では農薬代の約三〇％を補助して防除を推進しているので、農家では一〇アルル当たり一七〇円程度で済み非常に経済的

であるばかりか散布効果も大きいわけである。

質問 父子世帯の実態調査について—父子世帯の生活は大変であり、想像もつかないほどの実情ではないかと思う

職場でも人並に働き、男同志のつきあいもできない；疲れたからだで帰ってきて、炊事、風呂、洗濯、ふき掃除など、ことわざにも「男ヤモメにウジがわく」といわれているように気の毒なことで、利根町には少ない家庭とは思いますが、家庭の中にくらかの明るい光を当ててあげたいと思うので、実態をつかんでいただきたいと要望する。

鈴木厚生課長答弁 この父子

空地に繁茂した雑草等の除去について

B議員

質問 利根町には現在各地に空地があり、火災または犯罪の原因にもなりかねない状態である。

昨年、早尾団地で枯草からボヤが発生しておるが、これらのことを未然に防止するためにも、土地の所有者または管理者に対し、町長命令により除草または除去するよう

世帯については、ご質問のように本当に大変なことだと思

実はこのことについて、一昨年町の社会福祉協議会で調査しており、その時は、十八才未満の親族のいる父子世帯は七世帯であった。

そこで、この問題については、県でも県内に常住する父子世帯の実態を明らかにして今後の本県の地域活動の基礎資料を得るために、県の社協にその実態調査を委託され、満十八才未満の親族のいる父子世帯について、各市町村の民生委員を通じて、その実態調査が行われることになっておるわけで、町でも現在その準備中である。

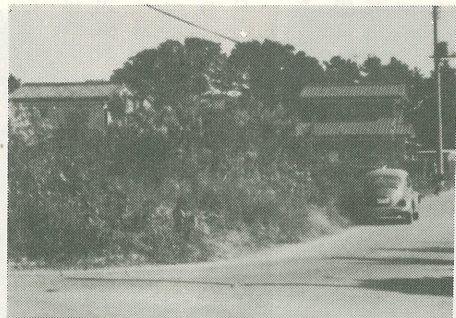
空地に繁茂した雑草等の

条例化し、住民の生活の安定と清潔な生活環境を保持するためにもぜひ要望する。

町長答弁 雑草の除去については、以前にも同様の質問があり、そのほか各団体の会議

でもしばしば聞かれるので、町は一、二年前からまず、条例を制定する前に指導しようというところで、現在その指導にあたっては段階である。

空地に繁茂した雑草。10月25日布川台で撮影。



また、公害の発生も多いし火災予防上もつとも危険なのは、市街化区域なので、とりあえず市街化区域の雑草の繁茂している土地の所有者に対し、先般町長名義をもってすぐに除去するようにとの趣意を達したわけである。

さらにまた、その結果をみて、なおかつ応じない場合は条例を制定して強力な措置を進めたいと思う。条例の案はすでにできておる。

遠山保険衛生課長答弁 大綱

はただいま町長が申したとおりであるが、ご指摘のとおり雑草の繁茂は火災の発生あるいは犯罪等を誘発する恐れもあり、また不法投棄のもとと

もなり好ましいことではない。そこで、町では、昨年一応市街化区域内を調査の上、土地の所有者に雑草の刈り取りを再三にわたり、強く要求して刈り取っていただいたわけである。

本年もそろそろ寒さに向かうおりがら、ただいま空地の調査を実施しており、一部終わった地区に対しては、町長名で刈り取りをするよう文書で連絡したが、その結果、どうしても協力が得られなければ、草刈条例設置の準備もできておるので施行したいと思う。

質問 中学生の登下校の際のヘルメット使用について—

交通事故が全国的に多発している折、先日一父兄からヘルメット使用について話があり県に問い合わせた結果、七カ町村で使用していると聞き、さらに各町村の使用後の内容について問い合わせたところ住民、父兄から高く評価され好評を得ているとのことであった。

また、境町と鹿島町では、先月通学途中の中学生が事故にあい、どちらの事故もヘルメットを使用していたため、大事に至らなかったという話

も聞いておる。

利根町でも道路が完備され非常に車の動きが激しくなり特にダンプの出入りが激しく自転車通学の生徒も毎日不安におそわれている現状である事故を最小限におさえるためにも、町でぜひヘルメット使用を実施されるよう要望する。

武藤教育長答弁 利根町では幸いにして、教職員、生徒とも事故がないということ、それに甘んじているというわけではないが、特に交通関係のモラル等については、学校では非常に熱心に教育をしておるようである。

しかし、ご指摘のヘルメットの使用については、事故が起きてからでは、すでにおそいということ、調査の結果それを参考にして前向きに検討したいと思う。

玉里村や茨城町の実施状況を見ると、半強制的に町で予算を組んで金額あるいは半額を負担して使用させるといいう現状である。

それにしても実施するとなると、生徒並びに父兄の理解が必要であると思うが、いずれにしても前向きに検討してなるべくそのような方向へもっていきたいと考えている。

故山田正雄先生の遺徳偲び 立木の円明寺に墓碑建立



▲ ありし日の山田正雄先生

この写真は、先生が67歳の時撮影されたもので、司法試験を受験されるにあたって使用されたものです。

卓越した識見と政治手腕によって、現在、めざましい発展を続けている利根町の基礎作りを強力に推進された元町長故山田正雄先生の墓碑が建立され、去る十月九日その開顔供養が立木の円明寺で行われました。

先生は、ご承知のように大字立木の身出。常に勉学に励まれ、諸般の法律に詳しく、若い頃は、独学で高等文官の試験に合格され、かつまた昭和四十四年には六十七才という高齢にもかかわらず、司法試験の難関を突破され、弁護士をめざして、さらに法律の研究を続けられたのでありま

すが、惜しむらくは病魔のおかすところとなり、昭和四十六年七月三日、竜ヶ崎協同病院で多くのの人々から惜しまれつつ逝去されました。六十九才でした。

その間、先生は、外交官をはじめ、布川町長、利根初代町長、調停委員、農協組合長等の要職を歴任、火のような情熱と一貫した正義感をもって町の発展のため終始されたのであります。

また、山田先生を語るにつけても忘れることのできないのは、昭和二十六年の小貝川付替問題であります。この問題について先生は、日夜研究

に研究を重ねられ、いわゆる理に叶った反対運動を町民とともに、その先頭に立って徹底的に続けられたのであります。

これによって布川町の大半が川底に沈むという事件は、ついにたな上げとなり、今日の利根町の繁栄がもたらされたのであります。

以上のほかにも、簡易水道事業等、その功績は、例をあ

げればきりもないことであります。利根町が生んだ実力政治家の功績が時代とともに忘れ去られることは忍び難いものがあります。

このたびの墓碑建立については、今後とも末長く故人の遺徳をしのび、後世に語り継いでいこうということから町内の有志二百数十名が賛助会員となって二百八十八万五千円の浄財が寄せられたもの



▲ 立木の円明寺に建立された山田正雄先生の墓碑。

10月9日その開顔供養が行われました。



であります。

開顔供養が営まれた十月九日は、しつとりとした秋雨。しかし、浄められた円明寺の境内には、先生の御遺族をはじめ、町内外から多くのかたがたが、定刻前より集まり、立派に建てられた墓碑の前にぬかずき、ありし日の先生の思出話にそれぞれ花を咲かせるのでした。

なお、本堂では、おごそかに流れる読経の中で、すべての参列者が御焼香をし、故人の冥福をお祈りいたしました。

社協だより

ボランティアに 進んで参加を

皆さまは最近よく新聞や雑誌にのっている「ボランティア」ということを耳にしませんか。「ボランティア」とは、広辞苑によると①義勇兵、②自ら進んで事業に参加する人。となっております。簡単にいうと社会の奉仕者といえます。

たとえば、老人や身体障害者のお世話や相談相手、子どもの遊び相手や話し相手、恵まれない家庭や母子家庭の手助けや相談相手等社会福祉に

秋の利根川を歩く

「最近だれもが歩く機会をなくした」ということで、十一月三日、栄橋を出発し、稲敷郡河内村との境界である東奥山新田まで、往復十六キロの道を歩く「歩け歩け大会」が行われました。

この日は、晴天に恵まれて参加者は約七〇名をかぞえ、取り入れの終わったたんぼを見ながら、利根川の土手をみんなで歩きました。

途中、休憩した立崎では、

対する奉仕活動をされるかたの協力を社会福祉協議会はお待ちしております。

皆さまの善意を「ボランティア」としてみんなのしあわせのため提供してください。

心配ごと相談所に法務局から係官

毎週月曜日午後一時から利根町公会堂で心配ごと相談所を開設しております。

十二月十九日には、法務局から係官が来て皆さんの相談に応じます。お気軽においでください。

乳牛がのどかに草をはんでおり、のんびりした気分になります。

お昼には、地元のかたがたのお茶の接待を受け、べんとうがとてもおいしかったことなど、楽しい思い出の一日となりました。

ファイターズが優勝

恒例の町内秋季野球大会が

利根町野球連盟主催、教育委員会後援のもとに、十月二日から中央公民館グラウンド及

び利根中学校とこのたび利根川河川敷に新設された野球場の三面を使用して開催されました。

この大会も年々盛んになり今季の参加は、三〇チームをかぞえ、各グラウンドでそれぞれ熱戦をくりひろげました。その結果、最終日の同十六日には、中谷クラブ、羽根野台、梁魔王、ファイターズのベスト四が勝ち残り、このチームによって準決勝が行われ決勝には梁魔王対ファイターが対戦し、熱戦の末ファイターズが優勝旗とカップを手に入れました。

町内バレーボール

大会行われる

十月三十日、利根中学校体育館で、男子四チーム、女子九チームが参加して「町内バレーボール大会」が行われました。(体育協会主催)

それぞれ二つのコートにわかれ熱戦をくりひろげた結果男子は決勝にナイルス部品と利根中OBが対戦し、利根中OBが優勝。女子チームは、常陽銀行と東文間チームが決勝で対戦し、わずかの差で、東文間チームにがい歌があがりました。



広報紙

「めひしば」を創刊

東文間婦人会では、昭和五十二年度から専門委員会(研修委員会、福祉委員会、広報委員会)を作り、それぞれの分野で活動しております。

広報委員会では、この十月に広報紙「めひしば」を創刊し、全会員に配布いたしました。

広報紙をとおして、情報を提供し、会員相互の交流と親睦をはかり、また会員ひとりひとりの声を聞き、年間行事計画に生かしていきたいと思っております。

わたくしたちの婦人会、わたくしたちの「めひしば」として永続させ愛していきたいと願うものです。

発行にいたるまでには、皆様のご支援をいただきありがとうございました。

【写真はめひしば創刊号】



公会堂で

第五回健康教室を開催

十月二十五日(火)午後二時から、利根町公会堂で「長寿について」というテーマのもとに、第五回健康教室が開催されました。

この日は、テーマが長寿に関するものだけに、参加者は

さすがに中年以降のかたが多く、講師の先生のお話到最后まで耳を傾けておられました。なお、今回は、当日のお話の要点を診療所の近藤先生がまとめてくださいましたので次にご紹介いたします。



▲ 近藤先生の長寿のお話しに熱心に耳を傾ける参加者の皆さん。
10月25日、利根町公会堂で写す。

▲ 荒木 恒夫先生(右)
杉山 七郎先生(左)



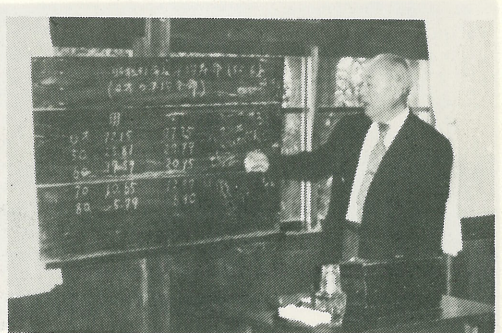
長寿について

医師 近藤通世

人間が長生きしたいと思うのは、万人共通の願いであります。が、いまだ不老長寿の妙薬はできておりません。

昔は、乳幼児の死亡率が高かったのが、江戸時代の平均寿命は僅か二八才でありました。ところが今では、栄養の改善と医療の向上により、平均寿命は男子七二・一五才、女子七七・三五才と大幅に延びて世界の長寿国の仲間にはいりました。世界の最長寿者

▶ 近藤 通世先生



それには、成人病、ガン、交通事故等に留意することがたいせつであります。

次に食事では、大食、美食は禁物で、野菜、くだものがよく、海藻類も重要であります。

最近、健康自然食品という青汁も試みてよいと思われまます。また、塩は、一日一〇グラム以上取りますと血圧は上がりまますので、生理的には五グラムまでに押さえないと思います。

運動は、年配者には、散歩がよく、中年者には、ゴルフやランニング等が適当であります。とにかく運動は、若返りの秘策であるといわれます。長寿は、日常伝とかなり深い関係があるように見受けられますが、これに反するデータもでてきます。

環境については、悪い水や空気が健康を害することは申すまでもありません。また、核家族は、世界の風潮で老人の心に影響を与えています。女性が男性に比し長生きすることは事実であります。その真因はよくわかっておりません。

最後に長寿の裏側では、病弱孤独の老人に対する福祉策が重要であります。

成人病検診を実施

茨城県の脳卒中による死亡率は、わが国最高位で二・八・四%となっております。

そのため、県でもこれを重視し、今年度から結核検診にあわせて成人病検診を実施することにし、利根町でも八月三日から八日間各地区で四〇才〜六四才までを対象に実施しました。

その結果、受診者数九六九人のうち、要精検者は二六八人で、要精検者の内訳は次のとおりでした。

高血圧者 二〇二人

糖検出者 二〇人 (七五・四%)

たん白検出者 四六人 (七・五%)

(一七・一%)

その時、食生活推進員の協力を得て二種類のみそしるを作っていたいただきました。

塩分を〇・八グラム使用したものの(だしを使用)と〇・九グラム使用したもの(だしを使用しない)ですが、この場合たとえ塩分は少くともだしを上手に使用することによっておいしくいただけるわけ

医学講演会のお知らせ

演題 ガンで死なないための知識

講師 東京女子医大名誉教授

中山 恒明先生

場所 取手市民センター 大ホール

日時 昭和五十二年十二月三日(土曜日)

午後二時から三時三十分(時間励行)

入場料無料

中山恒明先生は、皆さんご存じのとおりガンの世界的な権威です。最近のガンの専門的な話を、わかりやすくしてください。

このような機会はないかなと思いますので、友人をさそい合わせて多数ご出席ください。

主催 取手市医師会

で、それを皆さまがたに味見していただいたわけです。農家などでは、とかく塩分の多いものが好まれているようですが、成人病と食生活はご存じのように密接な関係がありますので常に食生活には細心の注意をはらい、成人病の予防に万全を期したいと思います。

ぞうきん二五枚を寄贈 押付新田老人クラブ

押付新田老人クラブ(石塚勘一会長、会員五一名)ではこのほど町の教育委員会を通じて、手縫いのぞうきん二五枚を寄贈。教育委員会では、さっそく町内の小中学校に配付いたし



▲精密検査を必要とする者のうち、主に貧血と高血圧の栄養相談を受けるかたがた。
9月30日利根町公会堂で写す。

ました。
押付新田老人クラブの皆さまには、紙上をもって厚くお礼を申し上げます。

☆ ☆ ☆

広報文芸

俳句： 押戸 大津 慶雨
文化の日晴れたる空に菊にお

う
冬めきて山茶花見える垣根ご

し
秋深き今日のよき日に七五三

小春日和すいすい飛べる赤と
んぼ

濃い紅葉山のあなたに冬をみ
る

押戸 大津 誠

秋の海まず磯鳥の声に明け

夕映に伊豆の山脈秋深し

踊り子も越えし峠や秋深し

天明の石堀苔むして行く秋に

り
牧水もつかりたる湯や秋すめ

商工会だより

◆金融だより

○借り入れ金利引下げのお知らせ

●普通貸付(九月二十一日貸付分から)

●年利七・六%(旧七・八%)

●経営改善資金貸付(十月二十一日貸付分から)

●年利六・八%(旧七・二%)

○経営改善資金融資枠

●十月・十二月分一、五〇〇万円

●設備・運転資金等ご入用の方は、商工会窓口で取扱いをいたしますのでお申し込みください。

●借入申込条件||商工会へ加入して一年以上の商工会員

◆税のしるべ

○飲食税二、〇〇〇円まで免税に(カッコ内は改正前の金額)

税の改正はされません。

◆お知らせ

○先月号で掲載されました地域振興懇談会の開催日は十二月月上旬とありますが、講師の都合によって昭和五十三年一月下旬に変更いたしましたのでお知らせいたします。

○労働保険料第三期納入期です。一人でも納付期限を守りませんと、期限内に納付されたかたがたに大変ご迷惑をかけるので十一月三十日までには必ず納入されますようお願いいたします。

○十二月は源泉税年末調整の時です。指導日については、各会員にお知らせいたしますので必ず出席してください。

○青色申告決算説明会は十二月十四日(水)午後一時利根町公会堂で開催いたします。

○店舗診断申込受付中

○商工会だよりにご意見、ご希望をおよせください。

◆訂正

広報とね十月号商工会だより

○お年寄りと税金の箇所

金額が「一千万以上」とありますが、「一千万以下」の人の誤りですので訂正いたします。

(利根町商工会事務局)

けい光灯もそつじを

夜が長くなった昨今、照明のごやっかひになる時間が多くなりましたが、ここでおすすめしたいのが、電球のおそつじ。今や照明というと、光の色が昼光色や白色というところで、いかにも明るく感じられるので、それまでの赤っぽい光を出す普通電球に代わってけい光灯が一躍主流になっております。しかし実際の光量は二〇ワットならそれだけの明るさしかないわけなので、光の色にだまされ、意外に暗い灯下で書物を読むことになっているようです。

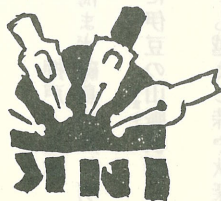
読書には五〇〇ルクス以上の明るさが必要ですが、これは二〇ワットけい光灯の直下の明るさとか。また周囲も半分ぐらいの明るさがないと目がつかれるといわれておりま



青色申告決算および年末調整説明会

年末調整説明会

青色申告決算および年末調整説明会が、十二月十四日午後一時から利根町公会堂で開催されることになりました。関係者はぜひ参加してください。さるようお知らせします。



す。せめて一カ月に一回は、電球をはずし乾いた布で汚れをとり、器具の反射面もきれいに拭き取って冬の夜長の読書を楽しみたいものです

町 勢 (昭和52.11.1現在)	
世帯数	2,393
人口	10,129
	{ 男 4,998
	{ 女 5,131
発行所	利根町役場
町長集	小島 栄一
編集	総務課
電話	(029768) 2211, 2212, 2213, 3733
印刷	倉沢印刷株式会社